様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　５月　７日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2008
課題番号：18520142
研究課題名（和文）　近代東海地域能楽資料の収集と整理―他の「伝統芸能」との交流

研究課題名（英文）　Making the Collection of Materials for Noh Performances at Tokai Area Having the Relationship to the Other Japanese Classical Entertainments.

研究代表者
飯塚　恵理人（IZUKA ERITO）
椙山女学園・文化情報学部・教授
研究者番号：00232132

研究成果の概要：
本研究は、東海地域の能楽愛好者が所蔵する能楽関係資料―伝書・プログラム・SP レコード・雑誌等―を収集・整理し、そこから東海地域の能楽の維持のシステムを考察することを目的とした。収集した資料から得た成果の詳細を『近代能楽史の研究―東海地域を中心に―』(飯塚恵理人　単著　平成 21 年 2 月発行　大河書房　全 325 頁)にまとめた。)

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	500,000	0	500,000
2007 年度	500,000	150,000	650,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,500,000	300,000	1,800,000

研究分野：文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：中世文学　東海地域　伝統芸能　能楽　データベース

１．研究開始当初の背景

平成 13 年 7 月に東海能楽研究会によって発行された『近代名古屋の能楽を支えた人々』によつて、東海地域の能楽愛好者は、明治以降徐々に富裕層が少なくなり、昭和の初年から知識人階層が増えることがわかっていた。そして能楽師も、昭和の初年から観世喜之など東京からの出稽古が増えること、その時代の愛好者の自宅に多く稽古用 SP レコードが遺されており、SP レコードでの稽古が行われたことがわかっていた。同時にその時期、コンピューターの発達により、それらの音源を mp3 ファイルにしてホームページから配信することが技術的に可能となった。

２．研究の目的

本研究は、明治以降、現在までの東海地域の能楽資料を収集・整理し、その特徴を明らかにすることを目的とする。同時に、東海地域の近代伝統芸能史全体の中に近代能楽史を位置づけるために、日本舞踊・長唄・箏曲など他の伝統芸能の資料の収集・整理にも着手する。東海地域の近代能楽界の特徴の一つとして、能を習う人が同時に日本舞踊・長

唄・箏曲など、他の古典芸能を習うなど、愛好者の層が重なっていることがあげられる。教える側も、幸清流小鼓方であった故田鍋惣太郎師は雅楽・長唄にも堪能であった。喜多流シテ方の長田驍師は長唄三味線もなさっている。能楽と邦楽を合わせた催しなども、戦後より盛んに行われている。能楽の愛好者の実態を把握する上では、日本舞踊・長唄・箏曲など、他の古典芸能を愛好する人との層の重なり具合の実態を把握する必要がある。現在、東海地域の日本舞踊・長唄には「御園座演劇博物館」「名古屋市鶴舞図書館」に収集されている資料がある。また、日本舞踊・長唄などの愛好者のもとに資料がある。これらの資料についても複写・撮影して収集し、データベース化を行う。最終的には近代伝統芸能史全体の構築をめざしたい。

３．研究の方法

・能楽愛好者が所蔵する能番組・写真・SP レコード・お稽古テープ等の収集・整理とデジタル化

・日本舞踊・長唄・箏曲の催しの番組〔プログラム〕のデータベースプログラムの開発。

・日本舞踊・長唄・箏曲の催しの番組〔プログラム〕の収集・整理とデータベースの試作。

・東海地域の日本舞踊・長唄・箏曲愛好者の所蔵する能番組・写真・SP レコード・お稽古テープ等の収集・整理とデジタル化

・「名古屋狂言共同社」など、「名古屋」の芸風の特徴を持つ催しを業務用デジタルビデオカメラで撮影し、保存する。

・筧鉱一師(能楽　大倉流大鼓方)、岩田律園師(尺八演奏家)、虫鹿竹雄師(長唄愛好者)など、戦前の名古屋の能楽界、邦楽界を知る古老にインタビューを行い、記録する。

・ 能楽番組データベースは入力・校正が終わったところから順次公開する。現在平成９年までが公開されているので、これを平成 12 年まで公開できるところまでもって行きたい。

・ 戦前の SP レコードの音源など著作権上問題のない録音・画像についてはインターネットを用いて公開する。特に戦前の謡曲・長唄・箏曲などを携帯端末で聴く事のできるサイトを作成したい。

これらの作業によって、能楽の愛好者が一方で長唄・箏曲などの愛好者でもあり、互いに交流があることが明らかになると期待される。そして、これらの作業によって、近代の伝統芸能の実態がより明らかになることが期待される。

４．研究成果

江戸時代の幕府のお抱え役者は生活を幕府の仕事と少数の相手の謡曲の教授に依存しており、これが明治維新で扶持を放れたときに困窮した大きな原因の一つであった。また明治政府が能楽師に転業を勧めたことも、東京において能楽が衰退した大きな理由であったと思われる。対して近世以降、名古屋を中心とする東海地域には、「芸能」を鑑賞するのみならず、自ら稽古して演じて楽しむという気風があった。江戸時代後期には能楽は富裕な商人層に多くの愛好者を持ち、それが明治維新期に能楽が継続できる大きな力となった。明治後期には藩の御用商人など富裕な商人層（”数寄者”）の経済力は徐々に落ちたが、商家が共同して出資して「能楽会」を組織し、能の催しをする組織を作った。大正から昭和にかけて、資産はないが大学卒業などの高学歴をもとに公務員や会社員として高給をとる新興の「知識人階級」が起こる。夏目漱石はその早い例だが、知識人階級の人が謡曲を稽古することによって謡曲人口は飛躍的に増え、能楽師の収入は増えた。知識人階級は共同して能を催すことはなかったが、昭和初期には能が一回限りの一人席の券を販売するようになり、「薄利多売」で能の催しが支えられるようになった。名古屋でも経済力をつけてきた能楽師自身が数寄者に依存せずに催しを行うようになる。また SP レコード・ラジオというメディアの発達によって、人々は東京の「名人」や「家元」の声を聴くことができるようになる。このことによってどの流儀についても謡い方の全国的な統一が起こり、またレコードやラジオ放送によって「声を知られた」東京・京都などの有名な能楽師が地方に出張稽古に出かけるようになる。戦後、戦前の資産家は全国的に多く没落するが、能楽は知識人階級の支持を受けて急速に復興する。その基盤は、能楽師が経済力をつけて能楽堂の改修や催しに発言権を持ち、SP レコードやラジオ放送の影響で知識人層が能楽を稽古するようになる昭和初年にはかなり固まりつつあったと考えられる。

ホームページ等での成果発信について

音声資料の収集・整理は、近年の情報機器の発達によって初めて可能になったことで、本研究の大きな特徴である。能楽録音愛好者

が所蔵する SP レコードの収集・整理とデジタル化を行い、観世元滋・井上嘉介のデジタル化音源を主に飯塚研究室ホームページ「恵理人の小屋」より配信した。デジタル化により鮮明になった音源の比較により、明治期までは同じ流儀であっても地方により謡い方に違いがあるのが当然であったが、東京在の家元の吹き込んだ蓄音機レコードに合わせて謡いを練習するようになる昭和初年頃から、各流儀で急速に謡い方の全国統一がおこること、東京風に統一されることがラジオ放送開局の大正末年以降、特に顕著であることが、レコードの「音」からも明らかにすることができた。

・平成 18 年度－20 年度の 3 年間で、能をはじめとする「古典芸能」が、その担い手も「質」もレコード・ラジオというメディアの影響によって大きな変化を遂げたことを明らかに出来たと思う。SP レコードのデジタル化はパソコンの進歩によって平成 17 年あたりから実用的になった技術だが、デジタル化して録音を聴くことによって、現在の謡曲の謡い方は昭和初期、ラジオ放送開始の頃に統一されたと考えてよく、それ以前は地方によって同じ流儀であつても謡い方が異なっていたということを、「レコード」の「音」の上でも確認することが出来た。また著作権の消滅した音源をネット配信することによって、多くの研究者に資料提供することが出来た。謡い方が統一された理由は、ラジオの全国放送によって、東京の名人の「声」が地方に認知され、地方の人々が「家元」や「名人」のレコードによって稽古するようになったためと考えられるが、この現象は箏曲などでも確認でき、宮城道雄など、東京在住で「放送向け」の曲を作った人が弟子の数を大きく伸ばし、勢力を拡張させている。今後は、隣接諸芸能を含め、メディアの影響を視野において、明治から現代までの、能・狂言・長唄・三曲などのプログラム・音源・映像等の資料を収集し、古典芸能の質や変化の実態を明らかにして行きたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　21　件）

1. 「《巴》試解―うしろめたさの執心を―（一）」飯塚恵理人（単著）、紫明の会「紫明」第 24 号　P. 79～P. 83、平成 21 年 3 月（査読有）

2.「オーストラリア留学生向け狂言教材の開発―「梟山伏」を中心に―」ウィリアム・ペトルシャック・飯塚恵理人（共著）、日本風俗史学会中部支部「民俗と風俗」第 19 号 P. 141-P. 149、平成 21 年 3 月（査読有）

3.「明治末年の韓国における能楽公演：明治四三年「国諷」能楽公演を中心に」飯塚恵理人（単著）、韓林大学校日本学研究所「韓林日本学」第 13 輯　P. 4～P. 21、平成 20 年 12 月（査読有）

4. 「「狂言」の欧米文化圏向け教材の開発―「雷」のイヤホンガイド解説を中心に―」 ウィリアム・ペトルシャック・飯塚恵理人（共著）、名古屋芸能文化会「名古屋芸能文化」第 18 号　P. 81～P. 90、平成 20 年 12 月（査読有）

5. 「《敦盛》の背景－まことに法の友なりけり－（二）」　飯塚恵理人（単著）、 紫明の会「紫明」第 23 号　P. 70～P. 73、平成 20 年 9 月（査読有）

6. 「能に描かれた修羅・地獄」　飯塚恵理人（単著）、 学燈社「国文学」第 53 巻第 11 号 P. 36～P. 47、平成 20 年 8 月（査読有）

7. 「明治維新以降の伊勢・鳥羽の能楽―一色町を中心に―」飯塚恵理人（単著）、伊勢市教育委員会「国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財　一色の翁舞調査報告書」第三章第一節　P. 32-P. 46 、平成 20 年 3 月　（査読無）

8. 「留学生対象日本文化教材の開発－京都一泊研修旅行の「寺院」見学を中心に－」ウィリアム・ペトルシャック・飯塚恵理人（共著）、日本風俗史学会中部支部「民俗と風俗」第 18 号　P. 155-P. 166、平成 20 年 3 月　（査読有）

9. 「明治中期の名古屋能楽界－愛知県立博物館舞台の建設と舞台披を中心に－」飯塚恵理人（単著）、椙山女学園大学国文学会　「椙山国文学」第 32 号　P. 1～P. 20、平成 20 年 3 月　（査読無）

10. 「昭和初期の名古屋能楽界－能楽堂以外での催しを中心に－」飯塚恵理人（単著）、椙山女学園大学「椙山女学園大学研究論集」第 39 号　P. 23～P. 32、平成 20 年 3 月　（査読無）

11. 「《敦盛》の背景－まことに法の友なりけり－（一）」飯塚恵理人（単著）、紫明の会「紫明」第 22 号　P. 73～P. 77、平成 20 年 3 月（査読有）

12. 「《船弁慶》試解―義経の「都落」を中心に―」飯塚恵理人（単著）、紫明の会「紫明」第 21 号　P. 78～P. 83、平成 19 年 9 月（査読有）

13. 「夢幻能に描かれた来世－修羅道と地獄を中心に－」飯塚恵理人（単著）、日本文学

協会「日本文学」第56巻第7号　P.44～P.52、平成19年7月　(査読有)
14.「金春朋之助安治追跡－幕末・明治の金春八左衛門家－」飯塚恵理人（単著)、筑波大学平家部会「筑波大学平家部会論集」　第12集　P.113～P.126、平成19年3月（査読無)
15.「《烏帽子折》試解―折知る烏帽子桜の花咲かん頃を待ち給へ―」飯塚恵理人(単著)、紫明の会「紫明」第 20 号　P.72～P.78、平成19年3月（査読有)
16.「昭和初期の能楽―朝日講堂からの《土蜘蛛》「中継放送」を中心に―」飯塚恵理人（単著)、東海能楽研究会「催花賞受賞記念論文集」　P.25～P.33、平成 19 年 3 月（査読無)
17.「大学生対象伝統芸能教材の開発―ワークショップ型講義教材とインターネットでの音楽配信を中心に―」飯塚恵理人(単著)、椙山女学園大学「椙山女学園大学研究論集」第38号　P.99～P.104、平成19年3月（査読無)
18.「昭和初期の「伝統芸能」―蓄音機レコードとラジオ放送を中心に―」飯塚恵理人（単著)、椙山人間学研究センター「椙山人間学研究」第 2 号　P.128～P.136、平成 19 年3月（査読無)
19.「メディアと能楽―SP レコードと朝日新聞社主催能を中心に―」飯塚恵理人(単著)、椙山女学園大学国文学会「椙山国文学」第31号　P.21～P.33、平成19年3月（査読無)
20.「《八島》試解―瞋恚に引かるる妄執にて―」飯塚恵理人（単著)、紫明の会「紫明」第19号　P.84～P.89、平成18年9月（査読有)
21.「明治期の名古屋能楽界」飯塚恵理人(単著)、大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室「演劇学論叢」第8号　P.67～P.81、平成18年8月（査読有)

〔学会発表〕(計　2　件)
1.「昭和初期の能楽－新聞・ラジオ放送と蓄音機レコードを中心に－」飯塚恵理人、2007年度日本演劇学会全国大会(平成19年6月、大手前大学)
2.「音に聴く大正・昭和の能」飯塚恵理人・藤田隆則、「能楽学会関西例会　第7回能楽フォーラム」(平成 18 年 12 月、大阪大学中之島研究センター)

〔図書〕(計　1　件)
1.「近代能楽史の研究―東海地域を中心に」飯塚恵理人（単著)、大河書房、平成21年2月発行、全325頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件)
○取得状況（計　0件)

〔その他〕

６．研究組織
(1)研究代表者
飯塚　恵理人（Izuka Erito)
椙山女学園大学・文化情報学部・教授
研究者番号：00232132
(2)研究分担者
(3)連携研究者
三木　邦弘（Miki Kunihiro)
椙山女学園大学・現代マネジメント学部・教授　研究者番号：80174001
鳥居　隆司（Tori Takashi)
椙山女学園大学・文化情報学部・准教授
研究者番号：90207663
一色　忍（Isshiki Shinobu)
椙山女学園大学・生活科学部・助手
研究者番号：60121373